平成２２年度学生支援プロジェクト事業成果報告書

みんなで楽しむ音楽鑑賞会

「第４回 わくわくコンサート」

代表者　　料　治　和　典　（教育学部学校教育教員養成課程４年）

１．目的と概要

このプロジェクト事業の目的は、以下の通りです。

(1) 一般の音楽会に参加することが難しい特別支援学級なども含む児童や保護者、サポートが必要な方々などを対象とした音楽観賞会を開催し、音楽観賞の機会を提供する。サポートの必要の有無に関わらず、ともに集える「共生」の場の提供になることを目指す。

(2) 実行委員会の運営は、香川大学内の学部を越えた連携を行い、サークルや卒業・修了生、教職員、地域の方々などの協力を得ながら行っていくことを目的とする。

(3) この事業は、参加者された方々から好評をいただいたことで継続することができた。

今回も第１回から第３回の「わくわくコンサート」を改善し、継続的に開催することを目的とする。

今回は、「ドヴォルザークと新しい世界」をテーマとした。コンサートは、昨年までのアンケート結果を反映し、大ホールでのコンサートをコンサート１とコンサート２の２回に分けて実施した。コンサート１は、年齢制限を設けず、楽曲解説をしながら演奏をお楽しみいただける内容で行った。一方、コンサート２には年齢制限を設け、小学校３年生以上の方を対象として静かに演奏に集中できることを目的としたコンサートを開催した。また、コンサート１と２の間では、香川大学のジャズ研究会とそのＯＧによるジャズの演奏をお楽しみいただいた。

ロビーでは、開演前に児童文化研究会を中心としたレクリエーション、今回のテーマに沿ったクイズ、箏の演奏などを行った。開演後には、ヤマハミュージック中四国高松店のご協力のもと、ボランティアの学生を中心に楽器体験を行った。また、開演時間中は幼児教育コースの学生を中心として、ロビー託児を行った。

２．実施期間（実施日）

平成２３年２月６日（日）

コンサート　「ユーモレスク」

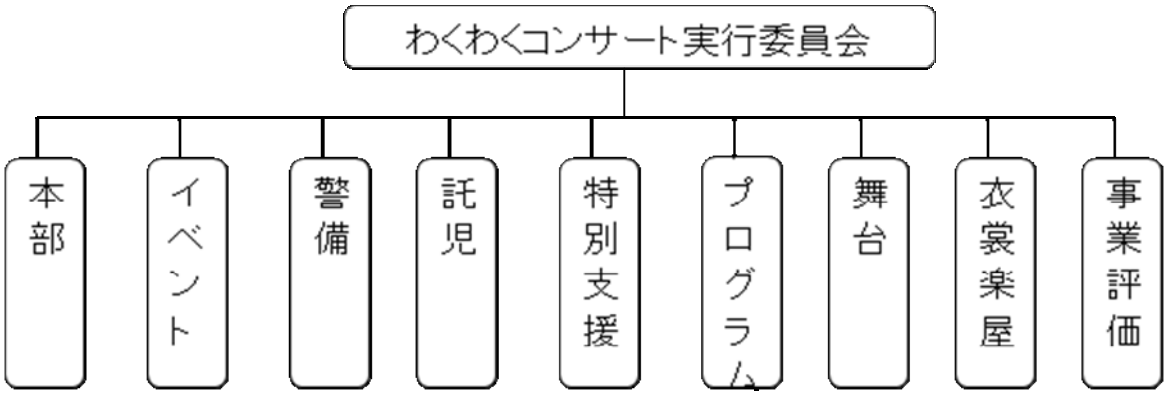
チェロ協奏曲

舞台設営のスタッフ

バードランド・クァルテット（ジャズ公演）

３．成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、今年度当初から計画に入り、プロジェクト採択が決定してから本格的に動き出した。構成員は、香川大学内の異なる学部・領域・学年・部活動に所属する学生の集まりであり、それぞれの得意分野を生かした仕事を割り当て、事前の準備を進めていった。構成員の組織図は以下の通りである。



本部は全体の統括を行った。各部門の仕事状況は本部と逐一連絡を取り合い、スムーズな運営を心掛けた。

本事業を行うに当たって最初に行ったのは、協賛や後援の依頼をすることである。本事業も第４回目を迎え、皆様方の本事業に対する認知度が高まるとともに、目的への深いご理解もいただき、私たちの依頼を多くの方々が快く引き受けて下さった。これはこの「わくわくコンサート」を継続して行ってきた成果であるといえると考える。

「わくわくコンサート」当日に向けて、各部門とも準備を進めていったが、その中で最も時間をかけたものが「チラシ」、「プログラム」、「配布資料」の作成である。「チラシ」は、本事業の広報活動の根幹になるものであり、チラシの良し悪しが事業の成功につながるといっても過言ではないほど重要な要素だと考える。そのため、市民の方々が目にとめていただきやすいもの、パッと目に入った時に印象のよいものを考え、追求していった。

演奏会当日、来場された方にお渡しする「プログラム」は、幅広い年齢層を対象とする本事業の目的も踏まえ、それぞれの年代にあったものを用意した。帰りにアンケートをいただいた方へ配布する「配布資料」（コンサートの内容をより深めるための資料）は、今回のテーマを踏まえたものを用意した。内容はコンサートで演奏した『家路』の楽譜とリコーダーの運指表を印刷したものにし、演奏を聴いて終わりではなく、家に帰ってからも資料を通して、会話やコンサートを振り返る機会を作ってもらえるように工夫した。

この「チラシ」、「プログラム」、「配布資料」の３つは、何回も校正を重ねて、良いものを作り上げていった。その結果、チラシは今回のテーマを端的に表したものが完成し、プログラムは様々な内容が含まれたものになり、配布資料も家に帰ってから再び楽しめるものになったのではないかと思う。

コンサート当日は、ホールとロビーで様々な企画が行われた。以下にホールとロビーに分けて報告する。

コンサート１でご案内を担当した香川大学生（小田原さん）

〇ホール

既に述べたように、今回のコンサートは、２回に分けて演奏を行った。このように２回に分けて開催するに至ったのは、前回までのアンケートの中に、「静かな環境の中で音楽を聴きたい」という要望が多くあったからである。過去３回の開催でこの「わくわくコンサート」の認知度が高まり、回を重ねるごとに来場者の方も増え、大変嬉しい一方で、小さなお子様の来場も多くなり、演奏中のマナーや環境面の課題が出てきたことも事実である。この課題に対応するべく、今回は試験的にコンサートを２回開催することにした。

コンサート１では、『スラヴ舞曲』、『家路（新世界より）』、『ユーモレスク』、『チェロ協奏曲』という４曲で行い、コンサート２は、『スラヴ舞曲』、『弦楽四重奏曲「アメリカ」』、『わが母の教え給いし歌』、『家路（新世界より）』、『チェロ協奏曲』の５曲を演奏した。このように２回のコンサートの曲目には若干変化を加えたが、全曲、どこかで一度は聞いたことのある曲の選曲となった。コンサート１では、全ての曲の間にお話を入れることで、小さなお子様が退屈しないことを考慮した。

今回は、今後を占う試験的な意味もあったが、実施した結果、多くの方に満足して頂けたようであった。しかし、年齢制限を設けたことで、兄弟を連れて来場された方への対応が新たな課題として出てきた。例えば、兄が小学校３年生、弟が小学校１年生の兄弟で来場された場合、今回のコンサートの形式では、２回目のコンサートに弟だけ入れないことになる。今回、このような状況の方からご相談を受けた際には、静かにできることを確認・周知して入場を許可したが、年齢制限を設けるとこのような状況は発生するので、今後どのように来場者の皆様全員に楽しんでいただけるかは課題である。

〇ロビー

ロビーでは主にイベントと託児を行った。１回目のコンサートの前には、「音で遊ぼう」、「クイズ」、「物品販売」を行い、１回目のコンサート後には、「楽器体験」、「クイズ」、「物品販売」を行った。

「音で遊ぼう」は、児童文化研究会の学生を中心に体を動かしたり、音を使ったゲームなどを行った。「クイズ」では、チェコに関するクイズを出題し、解答したお子様には、景品をプレゼントした。（景品は、企業から供出いただいた。）「楽器体験」は、ヤマハミュージック中四国高松店さんから楽器をお借りし、教育学部の音楽領域と吹奏楽団の学生を中心に、実際に楽器に触れたり、音を出したりできる場を作った。

この３つのイベントは、香川大学にある様々な領域、団体の学生がボランティアとして参加し、自分の得意分野を生かしたものとなっている。３つのイベントは、どれも大盛況で、特に楽器体験は本物の楽器に触れられるということで子どもたちも非常に楽しんでいるようだった。

しかし、楽器体験では、ロビーという限られたスペースに予想を超える人数が集まったため、大混雑となり、通路を塞ぐような形になった。スペースの確保と参加者の整列の方法を今後の課題としたい。

・楽器体験の様子

ロビー託児では、教育学部幼児教育の学生を中心としてこの日のために、小さなお子様が楽しめるようなものを準備した。折り紙やお話など、お子様も笑顔で楽しんでいた。

その他にも香川大学職員の方々を中心とした箏の演奏やヤマハによる物品販売が行われた。ホールの演奏とこのロビーでのイベントなどによって、多くの人が様々な形で音楽に触れることができたのではないかと思う。